

令和7年度の雪対策の取組について

1 除排雪事業の業務体制 ～持続可能な除排雪体制の構築～

《担い手不足等の課題や働き方改革に対応した安全で合理的な業務体制の構築》

(1) 除雪センター機能の集約と充実

- ・市内4統合地区4統合除雪センター体制による業務体制で試行を実施
(R6年度の4統合地区7除雪センターから集約を推進)
⇒統合についての問合せ等はなく、集約に伴う影響は特に確認されなかった

(2) 除雪DXの推進

- ・郊外定点観測地12箇所に積雪センサー・カメラを増設、計13箇所で運用
⇒道路状況を携帯端末等で随時確認できる環境が整い、業務の効率化・省力化が図られた

(3) 除排雪作業における安全対策の強化

- ・除雪企業所有の除雪グレーダ(14台)へ後方カメラや人感センサー設置を推進
- ・交通誘導警備員の配置強化や作業範囲の明確化による現場管理の強化
⇒除雪企業と十分に協議し、排雪作業現場を確認するなど安全確保に取り組んだ

2 路面管理対策 ～本市の実態に即した適切な路面管理手法の強化～

《近年の温暖化傾向など気候変動を見据えた対応》

(1) 極端な気象状況に対する路面管理対策

- ・12/12に12/20～12/21の気温上昇予報が発表(最高気温7.1℃記録)

令和6・7年度
の改善要望

【予防的対応】⇒12/15～12/19に生活道路の圧雪を
取除く「雪割作業」を実施

【情報発信】⇒雪割作業の状況などHP・SNSで発信

【計画的対応】⇒雪割作業後、生活幹線道路の排雪を
一部前倒し実施

	改善要望 総件数	ザクザクで 走れない	ザクザク 要望割合
R6	8,419件	4,492件	53%
R7	5,322件	727件	14%

(2) 生活道路の排雪強化

- ⇒1回目の排雪は1/31に完了。その後、2月は気温が高く推移し
雪解けが進んだことから道路状況を確認しながら2回目の排雪を実施

ザクザク路面の要望
⇒大幅減

今後の方向性

◎持続可能な除排雪体制の構築

(1) 除雪センター機能の集約と充実

- ・除雪企業や雪対策審議会、除雪連絡協議会等からの意見や取組を検証し継続

(2) 除雪DXの推進

- ・市街地の定点観測地1箇所にIoT機器を増設し、業務の効率化・省力化を推進

(3) 除排雪作業における安全対策の強化

- ・官貸除雪グレーダに後方の人感知センサーを設置し、働きやすい環境づくりを推進

◎本市の実態に即した適切な路面管理手法の強化

(1) 極端な気象状況に対する路面管理対策

- ・ザクザク路面発生の抑制に効果的な初冬期の取組(雪割作業など)の検証と継続
- ・間口処理など雪の置き方に対する情報提供(市民周知)の更なる強化

(2) 生活道路の排雪強化

- ・気象状況や路面状況に即した排雪の実施